



岸田めぐみ (ネット・社民の会)

1. スクールカウンセラーについて
2. 公園・緑地の未供用地について

問 スクールカウンセラーの配置状況について伺う。

答 市内全校に基本1名配置だが、カウンセリングニーズが非常に高い小学校1校と中学校1校については追加配置を受けて2名配置されている。

問 「東京都スクールカウンセラー労働実態調査」の結果からも、安心して働ける環境が必要と考えるが伺う。

答 スクールカウンセラーの連絡会を年2回開催し、いじめや不登校等テーマに沿ってスクールカウンセラーの関わり方について、情報交換している。

問 市教育委員会の役割に課題把握があるが、保護者や子どもたちから意見を聞いているのか。

答 既存のアンケートから意見等を収集し、課題を捉えて、課題の解消、そして解決に向けて取組みたい。

問 公園・緑地の未開園地である未供用地について伺う。

答 22か所、約35,000㎡あり現場環境の理由から一般開放を行っていないが、和田の未供用地は暫定対応で愛宕コミュニティセンターや福祉団体が活用している。



中島律子 (あすたま・維新)

1. ランドセル来館等子どもの居場所
2. 不登校児童・保護者への初期対応

問 学童保育の待機児童が生じている学校において週5日の放課後子ども教室の早期実現について伺う。

答 事業の効果や運営上の課題等を検証し順次実施していきたい。

問 児童館の直接来館の利用について、利用開始時期を現状の5月から4月に早められないか伺う。

答 希望が多ければ児童館の職員や小学校と相談し、安全に対応できることを確認しながら前倒しできないか検討していく。

問 不登校児童の保護者をサポートする手段として保護者同士が話し合える場が必要だと考える。ゆうかり教室が行っている保護者交流会にゆうかり教室利用者以外の希望者も参加できないか伺う。

答 利用していない方も参加をいただけるか検討したい。

問 不登校児童の保護者への聞き取りが足りない。コミュニケーションシート等を使った支援をしてはどうか。

答 すでに支援シートを活用している学校の事例をもとに活用促進につなげていきたい。



上杉ただし (日本共産党)

1. 医療空白地域への対応について
2. 諏訪・永山再生プロジェクト検討会議について

問 所管部署と厚生荘病院法人側とで定期的なやり取りをしているということだったが、現在も続いているのか伺う。

答 不定期ではあるが、診療所の件や地域住民への説明の機会を設けることについて要望を伝えている。

問 和田、東寺方周辺の医療空白を解消するための取組みとしてどのようなことをしてこられたのか伺う。

答 医師会と課題の共有や意見交換を進めている。地域の状況を見極めながら、地域医療確保に取り組む。

問 既存エリアでの病児保育室の充足率について所管の評価を伺う。

答 一時的に利用が重複するときはあるが、年間を通して受入れがひっ迫している状況ではない。

問 諏訪・永山再生プロジェクト検討会議の計画に、地域住民の声がどれくらい反映されていると考えるか伺う。

答 多摩市の諏訪・永山まちづくり計画では地権者等との勉強会、市民ワークショップを開催した経緯がある。今後、市民説明会などによりさらに意見を伺っていく。



あらたに隆見 (公明党)

教育環境のさらなる充実にむけて

問 社会情勢の変化によりPTA活動が困難になっている。学校を支える新たな仕組みの構築が必要ではないか。

答 コミュニティスクールなどの仕組みを活用しながら各PTAの負担軽減について検討を進めていく。

問 CBTコンピューターを使った試験方法を取り入れている学校もあるが、今後どのようにしていくのか伺う。

答 ドリルはアプリを活用している。テストは紙で行っているが採点ソフトの導入に向けて検討している。

問 さらなるDXの推進でより良い授業作成、校内業務や採点等の業務負担を軽減し、教員がより子どもたちと触れ合う時間の確保につなげてほしい。今後のアフターGIGAスクールについて教育長の思いを伺う。

答 DXが飛躍的に進みこれからも変化していく。先手を打って半歩先を進み子どもたちに未来を見せていきたい。教育の専門性を高め、子どもたちと過ごす時間を大事にしていくことを追求して、人が人を教える機能を学校を中心に置いて学びを充実させていきたい。

